

特別連載

『医学生のための漢方医学』[臨床篇] の開始にあたって

東洋学術出版社では、このたび『医学生のための漢方医学【基礎篇】』の出版を受け、その続篇として【臨床篇】の作成に取り組むことになった。

周知の如く、中国には膨大な治療学としての経験の蓄積がある。それらは歴代の書物のなかに記され、現代ではその集約された形が中医薬大学で使用される教科書に記載されている。日本においても、江戸時代初期からの400年余りの期間に集積された治療経験はきわめて多く、特に吉益東洞以来、中国とは別の道をあゆんできた日本の漢方医学の経験は、中国にはみられない独自のものである。このような歴史的状況からわかるように、中国の中医学と日本の漢方医学の違いは大きく、両者の治療が一つの体系のなかで論じられることは、これまでほとんどなかった。

今号より連載を開始する『医学生のための漢方医学』[臨床篇]は、両医学のもつ特色を生かし、できるだけ統一された観点から、普遍的な漢方治療学の体系を医学生諸君に提供するという意図をもって発足する。【基礎篇】は安井が単独で執筆したが、【臨床篇】に関しては、広範にわたる各疾患の漢方治療を一人で紹介することは不可能であるので、このための特別編集チームを組織し、執筆にあたることになった。メンバーはほぼ固定しているが、テーマごとにその領域の専門家に入っていただき、現代医学的な視点をも十分に考慮した内容としたいと考えている。

臨床全科の漢方治療を紹介するため、連載は長期にわたることになるろう。また、はじめての試みであるので試行錯誤をくり返すこともあり得るであろう。読者諸兄のご叱正を賜れば幸甚である。



『医学生のための漢方医学【臨床編】』編集委員会
代表 安井廣迪